

玉野市立築港小学校

児童数137名 ・学級数7学級 ・教職員数17名（平成26年9月1日現在）

○取組実践のキーワード

基礎的な知識・技能の習得

○標題（研究主題）

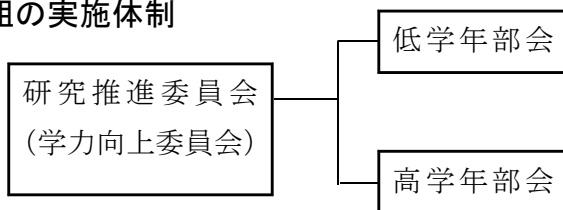
「わかる・できる」が実感できる算数科の授業づくり ―学び合いを取り入れて―

○取組を始めた経緯

学校生活で授業時間は最も長い大切な時間である。児童にとって楽しい授業とは、「わかったという喜び、できたという達成感を味わえる授業」だと全職員が共通理解している。今年度は昨年度のテーマを引き継ぎ、身に付けた知識や既習の考えを生かして問題を解決したり、自分の考えをもち、その考えを表現したりできる子どもの育成を目指す。

授業の中に、学び合いを取り入れることで、「わかる・できる」が実感できる算数科の授業づくりに迫っていきたくて考えて校内研修で取り組んできている。一方、今年度の全国学力・学習状況調査の結果の分析から、①「漢字を正しく読んだり書いたりする。四則計算を正しくする。」基礎的な学力が弱い。②自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが苦手である。③家庭学習の時間が少なく、テレビやテレビゲームの時間が多いなど、帰宅後の過ごし方等の課題が新たに見えてきた。

○取組の実施体制



・毎週水曜日を定例の研修日として、共通理解を図りながらの研究推進

○学力向上に向けた具体的な取組

1 授業について

- ・「魅力ある授業づくり徹底事業」を活用し、担任・専科担当者が全員公開授業を実施。講師から指導を受け、指導力を高めた。
- ・教育庁義務教育課作成の「単元別学習到達度テスト」「基礎学力定着プリント」などを毎週水曜日の計算タイムや夏のステップアップ教室等で活用し、学習のまとめや基礎的な学力の定着を図った。
- ・発達段階に応じて、学習した内容を振り返ることができるようなノートのとり方を、まとめ方の例を提示したり、書くポイントを示したりして指導した。

2 指導力向上のための研修・校内研究等について

- ・水曜日を中心に、校内研修（全体もしくは各部）の計画を具体的に立て、時間を確保するとともに、全員の公開授業実践と研究協議を行い、教員の授業力アップを目指した。

3 学習規律について

- ・最低限の規律については、生徒指導主事を中心に、校内研修等を活用して共通理解した上で指導に当たるようにする。学校全体で取り組むべき事柄を「ちっこう小 5つの合い言葉」としてまとめ、全教職員が継続して指導に取り組んだ。

- ・電話連絡、家庭訪問、連絡帳、学級だより等を活用して、リアルタイムに子どもたちの成長を知らせながら、家庭にも協力を呼びかける。
- 4 家庭学習等の家庭との連携について
- ・「ちっこう小 5つの合い言葉」を保護者と子どもとで共通の話題にして取り組んでいけるように、学校から働きかける。懇談でも必ず話題にした。
 - ・「家庭学習の手引き」を作成して配付した。その活用を図るとともに、学年に応じて計画的な家庭学習の仕方を指導した。
 - ・中学校区で「家庭学習するぞ週間」を設定し、中学校区で取り組む。この一週間は学年の決められた時間をノーメディアで学習に取り組むよう働きかけた。

○現在までの取組の成果と課題

1 成果

- ・生徒指導等、本校が抱える多様な課題の多い中、担任・専科担当者が全員公開授業を実施し、講師から指導を受けたり、職員同士で協議をしたりして、互いの指導力向上に努めたこと。
- ・算数科における「意欲的な自力解決を支える支援」や「自力解決の意欲を持続させる支援」を通して、自力解決に取り組もうとしたり、授業中に自分の考えを発言しようとしたりするなど、児童の様子から成果が見られるようになった。

2 課題

- ・「わかる・できる」授業の土台となる基礎基本のより確かな定着を目指した取組を継続、充実していくこと。
- ・学校としてのきまり「よい子のくらし」を基に、発表の仕方や話の聞き方、学習用具の使い方等を学年に応じて徹底して指導していくこと。特に来年度は、中学校区で「話の聞き方」に重点を置いて取り組む。
- ・土、日曜日の家庭学習の充実。全職員共通理解の下「学習到達度確認テスト」を活用したり、漢字計算の定着を図る課題を取り入れたりする。
- ・学級懇談・学校だより等を活用し、積極的に保護者と連携して、家庭での過ごし方（家庭学習・読書・テレビやゲームの時間等）の見直しを図っていくこと。

○取組の継続・発展の要因

- ・研究推進委員会を中心に、全職員が「子どもの成長」を願い一致団結して取り組んだこと。
- ・外部講師やボランティア、地域の中・高生の協力を得ながら取り組めたこと。
- ・小中の連携が取れていたこと。

○管理職・中核教員等のアクション

- ・校務分掌に位置付けた研究推進委員会での学力・学習状況改善プランの策定と推進
- ・教務、研究主任を中心としたミドルリーダーの推進力